

人権なら

2016年2月1日

第62号

●ひと・まち・生き生き

NPOなら人権情報センター

川西町の人権スポット巡る

磯城郡人権教育推進協議会がフィールドワーク

磯城郡人権教育推進協議会は11月16日、フィールドワーク「川西町人権スポットを訪ねて」に取り組んだ。コースは町

役場－井戸片山家旧宅環濠－下街道－油掛地蔵(写真)－板屋ヶ瀬橋・渡し場－吐田



杵神社－南吐田新野家環濠－太子道－唐院環濠－役場。案内は吉田栄治郎・天理大学講師が務めた。

この地域は大和川につながる水運と下街道・太子道(筋違道)とが通る交通の要所。下街道沿いにある油掛地蔵は聖徳太子が斑鳩に向かう途中、この地で休憩。西に向かって南無阿弥陀仏と唱えたら、空中に地蔵尊の形が現れたので作ったと伝承される。

山下 力さんが寄稿文

昨年4月、県議会議員8期32年間の議員活動に終止符を打った山下力・副理事長。引退後、「山下さんはどうされているのか」



との声をよく聞く。そこで、本人に近況などを書いてくださいと、お願いした。3・4面に掲載する。今後も不定期に書いていただく予定だ。写真は2012年のNPO総会で語る山下さん。

かつては郡内に30ヵ所も環濠があった

板屋ヶ瀬橋は下街道に架かっていた橋(現在より下流にあった)。流橋(流量が多くなると流れる橋)、あるいは、沈水橋(増水時は沈んでしまう)で、増水時には渡し船が使われた。辺りには、大和川魚梁船の間屋があり、大阪から運ばれる物資の集積地だった。

井戸片山家旧宅環濠、南吐田新野家環濠、唐院環濠を歩いた。磯城郡内には埋められたものを含めると、30ヵ所ほどあるという。片山家は井戸村の庄屋で木綿業を営んでいた大和を代表する地主。唐院環濠は集落の南部から北東部にかけて一部残っている。戦国時代の唐院城の跡と考えられる。各所を見て回り、身近な街並みが違った景色に見えた。

次回の研修会は2月7日午後1時半から、三宅町文化ホールで。講師はフリージャーナリストの西谷文和さん。テーマは「戦火の子どもたちから学んだこと」。

中企協が確定申告説明会

県中小企業者協会は2月4日から19日まで、支局会員を対象に2015年分「確定申告相談会」を開催する。相談会の日時、会場、対象支局は本紙前号で既報した。一方、中企協会員を対象にした「相談会」は次の日程で郡市町ごとに実施する。

磯城郡(三宅町、川西町、田原本町)は2月22・24・25・26日。奈良市、桜井市は2月29日。天理市は3月1・2日。御所市、葛城市、香芝市、宇陀市、北葛城郡は3月3日。大和郡山市、生駒市・郡、他府県は3月4日。橿原市、大和高田市、五條市は3月7日。

受付時間はいずれも午前9時半～午前11時半、午後1時半～午後3時半。会場は三宅町上但馬団地解放会館。問い合わせは0744-33-3939まで。

子どもの貧困問題と対策

佐々木育子弁護士が河合町人権講座で講演

第3回河合町「人権学習講座」が12月18日、開かれた。佐々木育子・弁護士が「子どもの貧困問題と対策」をテーマに講演した＝写真。佐々木さんは高齢者・障害者の権利擁護の活動や、貧困問題の部会に参加し活動している。



「なぜ子どもの貧困が問題なのか」を考えたいと切り出し、戦後の一時期にあった貧困とは、大きく違う状況にあること。何より「格差社会」の広がり、<無縁社会>への変容が大きな課題であること。非正規雇用は労働人口の40%を越えており、低賃金と不安定な就業状況が拡大している。そして、離婚率の上昇と世帯構成の変化が女性労働の非正規雇用化や母子家庭の貧困に拍車をかけていることなど、ひとり親世帯の貧困率が54.6%などの数値を示しながら説明した。

「なぜ子どもの貧困が問題なのか」を考えたいと切り出し、戦後の一時期にあった貧困とは、大きく違う状況にあること。何より「格差社会」の広がり、<無縁社会>への変容が大きな課題であること。非正規雇用は労働人口の40%を越えており、低賃金と不安定な就業状況が拡大している。そして、離婚率の上昇と世帯構成の変化が女性労働の非正規雇用化や母子家庭の貧困に拍車をかけていることなど、ひとり親世帯の貧困率が54.6%などの数値を示しながら説明した。

今こそ人権教育の原点に立ち返ろう

教育現場では、教育費の不払いや昼食が食べられない子どもがいる。子どもの虐待も大きな社会問題となっている。2013年に「子どもの貧困対策法」ができた。奈良でも委員会が設置され、自身も委員だという。その「県子どもの貧困対策計画(素案)」を紹介した。

議論はまだ始まったばかり。教育への公的支援の不足が大きい。そして子どもの貧困が若者の貧困に連鎖し、<ワーキングプア、ネットカフェ難民、ひきこもり、ニート>などが拡大している。

最後に、何を今、なすべきか、として、①福祉と連携した教育②教育の機会の平等③貧困を虐待につなげない、の3点を挙げた。そして、今こそ「人権教育の原点に立ち返ろう」と提起し、憲法13条の精神(人の尊重・個の尊重)と、人権教育に必要な視点としての想像力と行動力を育むことの大切さを強調した。

心身をリラックス、体ほぐし

ボディワーカーの栗岡多恵子さんが講演

第4回河合町「人権学習講座」が1月15日、開かれた。リラクゼーション・ボディワーカーの栗岡多恵子さんが「心身をリラックスさせる体操・気持ちよく体ほぐし」をテーマに話をした＝写真。

自己紹介とともに、なぜこのような活動をするに至ったのかを語った。1973年に宝塚音楽学校入学、1980年に退団。時代は「バブル」。1981年に東京で「クリオカジャズダンス・スタジオ」を主宰。結婚。しかし、相手は「暴力をふるう男性」だった。我慢すれば、頑張れば何とかかなると言い聞かせ、18年間やってきた。だが、体も心も持たなくなった。当時、DV防止法などはなく、なんとか民間の団体A(アルコール依存症・アノニマス。アルコール依存に人たちが)に出会い、小さい荷物一つを持ち、シェルターへ逃げた。「生きていいよ!」と言われ、43歳になり、初めて「居場所を見つけた」感じだった。



のんびり、ゆっくり自分を取り戻すために

現在も思い出すと、震え、体が硬直してしまうときがある。「PTSDって言うのかなあ?」。そうすると生活がたちいなくなるので、「逃げ出す」ようにしている。

そのころ、アロマと出会い、「香りは理性を凌駕する」と言われるが、のんびり、ゆっくり自分を取り戻すために、気持ちよく体をほぐすことが大切、と考えるようになった。その後、「離婚裁判」が始まり、実家に戻る。そして、2003年頃から栗岡式ボディワークを始めた。ボディワークとは健康になるためのツール・心と身体をすこやかに保つストレスマネジメントのことと語った。

このあと、アロマセラピーの楽しみ方や、呼吸法、身体をほぐす体操を参加者に伝授した。身も心もほぐすことの大切さを改めて認識させる楽しい講座だった。

好景気を演出する政権

はじめに—時間に追われることはなくなった

最近、時の経過がやけに早いと感じるようになってきている。8期32年の永きにおよんだ県議会議員を引退してから8ヵ月。およそ、退屈を覚えたことがない。かといって忙しいというわけでもない。公的スケジュールというものから解放されたので時間に追われることもなくなった。



特別なことがない限り、夜9時から10時までに床につき、朝6時から7時までに起きる。起きて直ぐに散歩をする。時間にして約30分にすぎない。

「戦争をさせない奈良1000人委員会中和」結成集会であいさつする山下さん(昨年7月26日)

唯一の運動という行動で、ここでの動きを通して身体のあちこちを自己診断している。

食事は1日3度、初美サンと2人で雑談しながら済ますことにしている。夕食のとき、輸入ものデリーワイン(赤)を2人して飲む。

田原本町鍵の事務所には、午前中に一度は顔出しすることにしている。だが、行けないときもあり、今村正博クンと永井満智男クンから出勤日が少ないのでは、と笑われている。

事務所で新聞の切り抜きをコピーし、帰宅してノートに貼りつけ、整理することを日課としているのであるが、どうしても気になって考えをまとめてみたいと思うことがあったりする。横から西原クンが「ニュースレター」に場所を設ける、とけしかけてきたので、乗ることにした。ド壺にはまったのかも……。

アベノミクスで景気は回復していない

さる1月4日、やっと召集した国会の冒頭で安倍首相は「もはやデフレではない。私たちは3年間でそういう状態をつくりだした」と胸張って宣告した。

しかしその後、報道関係者から「インフレ率0%に近

い。デフレ脱却というには早すぎるのでは」と突っ込まれ、「私は、デフレではないという状態をつくりだすことができた、とこう申し上げておりますが、残念ながらまだ道半ばであります。デフレ脱却というところまできていないのも事実であり…」と、弁明にならない答弁におおわらわであったと報じられる。

景気低迷から脱却を目的としたアベノミクスと称する経済政策は失敗したのではないか。2013年4月に就任した黒田東彦・日銀総裁のもとで実施された異次元の金融緩和(日銀の国債保有額は2013年1月の113兆円→2015年9月には325兆円)によって1ドル=120円まで円安が進んだのだ。

輸出企業はレートの差額で笑いが止まらない

野田佳彦首相(民主党)が衆議院を解散した2012年11月中旬の円相場は1ドル=80円ではなかったか。



アメリカでの自動車売上の価格は、いずれの時期にも

事務所のすぐ近くにある唐古・鍵遺跡。まもなく桜が咲く

ほとんど変わっていない。ドル取引で1台2万ドルと仮定して考えることにする。自動車メーカーがアメリカで車1台売って2万ドルを受け取り、2015年11月に日本で円換算して受け取る金額は240万円である。

しかし、同じ車を1台売って、2012年11月に代金として受け取った2万ドルは日本円に換算して受け取ったのは160万円ではなかった。自動車メーカーは労せずして「為替レート」の差額で80万円を儲けたことになる。自動車産業など輸出を基軸としている企業は、まさに笑いが止まらないというところである。

ところで、景気回復のサイクルは回っていない。財務省の貿易統計でも、円建ての輸出金額は2013年以降、おおむね増加傾向にあるものの、数量を示す指数は伸びていないのだ。外貨で得たドル収入を日本

円に換算した金額は円安によって膨らんだけれども、輸出向け製品が国内で増産されている状況にはなっていないということである。

安倍政権が企業団体の幹部を呼びつけて、「設備投資をしろ！」と恫喝をかけても、ヌカにクギではないか。市場が要求していないのに設備を増やしてどうするとか。

官製相場で株価を上昇させたカラクリ

第二次安倍政権の出発時の2012年9月に「日経平均8000円台」であった株価は、2015年4月には「日経平均で2万円台」まで上昇した。この異常な株価暴騰を仕組んだのは、誰だろう、安倍政権と日本銀行である。安倍政権は日銀に大量の国債を買い入れることを要請した。



議員引退を前にした山下力の「卒業式」で卒業証書をかざす
(2015年3月15日)

異次元の金融緩和を主張する黒田東彦総裁を軸とする人事にも介入し、2013年1月時点で113兆円だった日銀の国債保有を325兆円にまで3倍増した。銀行に不動産投資を促すためである。しかし、不動産を出発点とする物価上昇計画は不調に終わり、銀行はターゲットを株に切り替えた。

安倍政権は2014年10月、公的年金の積立金を運用する世界最大の機関投資グループであるGPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)の運用方針を激変させた。国内債券60%、国内株12%、国外株12%という運用枠を、各々、35%、25%、25%と変え、リスクの増大を無視し、株に比重をかける仕組みにしてしまったのである。

安倍政権は2014年10月、公的年金の積立金を運用する世界最大の機関投資グループであるGPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)の運用方針を激変させた。国内債券60%、国内株12%、国外株12%という運用枠を、各々、35%、25%、25%と変え、リスクの増大を無視し、株に比重をかける仕組みにしてしまったのである。

2015年7月～9月期に7兆8899億円という、2001年に年金積立金の市場運用を始めて以来、最大の四半期損失を出していることにも注視しなければならない。アメリカなどでは、かかる年金積立金は財務省が

発行する特別国債に全額投資され、リスク回避が義務付けられているという。

年金積立金は2015年9月末で135兆円余りとなっていて、そのうち13兆円が新たに株式市場に投入されている。

また、日銀は2014年10月、時を同じくして追加金融緩和に踏み切っている。市場投入を10～20兆円増やし、年80兆円に拡大した。

その結果、2013年1月に113兆円であった日銀の国債保有額は、今回、325兆円となり、日銀保有の資産383兆円の85%を占めている。

また、日銀はETF(上場投資信託)を3兆円購入していることも含めて、まさに、官製相場による株価上昇である。市場原理を犯すことではないのか。国債・年金を担保に株価を操作して“好景気”を演出しているだけではないのか。

安倍政権のホンネ隠しを許さない!

安倍首相は2015年4月、アメリカ議会で演説した同じ日にアメ

リカ笹川財団でも講演。"アベノミクスと私の外交・安全保障政



県議会議長の再選を祝い各界から100人以上が集った懇親会(2014年7月14日)

策は表裏一体でございます。日本経済が再び成長してGDPが増大すれば、国防費をしっかりと増やすことができる”と発言している。

「GDP600兆円」「出生率1.8」「1億総活躍」等々で、アベノミクスの延命をはかろうという企みは、その本質が透けて見えているのではないか。安倍首相が「悲願」としてきた“強い国づくり”の幻想にとどめをうちこんでおきたいものだ。

アベノミクスの化けの皮をはがすことで、すべてが終わると思う。民衆をなめたらあかんで!

(山下力・NPOなら人権情報センター副理事長)

県民歴史講座で3講

今年度最後となる第7回県民歴史講座が1月19日にあった＝写真。講座の1講は穴田敏之さんの「奈良盆地における環濠集落に関する研究－従来の研究成果と課題」。2講



は清水有紀さんの「奈良東山中の十九夜講について」。3講は奥本武裕さん(写真下)の「紀州の漢学者中尾靖軒と大和の人びと」。

資料にある県内の環濠集落は321ヵ所

1講。そもそも「環濠集落の定義」はあいまいで、定まっていない。そこで環濠とはなんぞやという点から話に入った。まず、郡山市稗田(ひえだ)町にある環濠集落の写真を紹介し、「一般的には、集落の周りをぐるりと堀のようなもので囲んでいる」と説明。①研究の系譜(始まったのも昭和初期～戦前期と比較的新しい)に続き、②環濠の定義-(イ)形態・構造(ロ)起源・歴史的意義(ハ)目的・機能(ニ)分布・分類・立地(ホ)成立の要件などを写真も交えて解説した。そして、昨年8月～秋にかけて県内の「環濠集落」と、資料にある321ヵ所のうち287ヵ所を調査した結果、さらに多くの疑問が出てきたと述べた。

安産や子どもの育成を祈る「十九夜講」

2講。「十九夜講」とは、月の十九日の夜に女性(主に主婦)が当番の家や地域の公民館などに集まり、如意輪観音の掛け軸の前で念仏(和讃・わさん)を唱えて安産や子どもの育成を祈る民間行事だ。こうした行事は関東～東北地方南部を中心に広く分布する(栃木・茨城・福島・千葉・群馬・埼玉など)。長野・山形などでも若干見られる。関西では東山中(大和高原北部)に集中的にみられるという。

奈良の十九夜講は、現在では村で暮らす女性たち

の付き合いの場として続けられているとして、月ヶ瀬の大正生まれの女性からの聞き取りを紹介した。

「和讃には女のけがれを清める祈禱が…」

「昭和21年、20歳で嫁ぐ。蚕の季節(5・7・9月)は家中畳を上げて蚕棚を作り、棚の間で細くなって寝ていたのがつらかった。夫の家族の世話、農作業、機織りや蚕の世話、家事に追われ、お産のときも産後3日位で水汲みして体をこわした。それだけに女性だけの集まりの十九夜講は楽しみだった」「和讃には、女のけがれを清めるための祈禱が書かれている」など。

また、「血盆教信仰」(女性特有の穢れゆえに死後、血の池地獄に墮ち、そこからの救済を提示する短文の仏教経典。10世紀以降、中国で民間仏教経典として成立)との関係や、その伝来・流布の流れや、「熊野観心十界曼荼羅」などを紹介。天理市福住町別所・山田町下山田・広出垣内での調査報告を説明した。

「かつて東山で広く行われていた十九夜講は、女性の穢れ観と女人救済の信仰に基づくものだったが、その意味合いは薄れている。時代とともに合理化を図りながら、これまで女性が自主的・自立的に運営してきた軌跡を辿ることができる」と述べ、話をまとめた。

部落内外の多くの青年を育成した中尾靖軒

3講。県同和問題関係史料センターは今、常設展示のほかに、「紀州の漢学者中尾靖軒と大和の人びと」をテーマにした企画展示をしている。この展示は和歌山県紀の川市教育委員会所蔵の中尾靖軒関係史料と、新たに収集した史料をもとに企画した。



中尾靖軒は幕末から明治期の和歌山県を代表する漢学者。紀伊国那賀郡の被差別部落に生まれ、五條の森田節齋らに学び、明治時代には自宅に私塾を開設し、部落内外の多くの青年を育成。「大和同志会」「全国水平社」にも影響を与えた、と説明した。

桜井で架け橋美術展

ハンセン病回復者たちとのつながりを求めて

第31回「架け橋」美術展・ハンセン病療養所入所者の作品展が1月15日～17日まで桜井市役所を会場に



開かれた＝写真。主催は「架け橋 長島・奈良を結ぶ会」と実行委員会。

この作品展は「ハンセン病問題の正しい知識と理解を深め、ハンセン病回復者の方たちと私たちの架け橋となることを願って開催」と呼びかけられた。1982年、奈良市内で開催し、県内各地で行われてきた。



会場には、岡山県の長島愛生園(ながしまあいせ

編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

まもなく確定申告の時期が来る。わが県中小企業者協会も今、その相談説明に追われている。「税は国家」だと言われる。国民からの徴税なくしては、国家は成り立たない。当然、徴税は公平、公正でないといけない。だが、現状は富裕層が優遇されている。大企業の7割は法人税を支払っていない。世界のトヨタは5年間、納税せず、やっと最近、支払った。大手銀行も軒並み最近まで10年以上も支払っていなかった。政権党に多額の政治献金をしながら納税を逃れていた。最高益を上げる企業が相次ぐ今日、実質賃金は下がっている。まじめな納税者はずっと怒ろうではないか。

いえん)・邑久光明園(おくこうみょうえん)、香川県の大島青松園(おおしませいしょうえん)の入所者の作品を中心に、陶芸・手芸・書



や絵画、川柳などが展示された＝写真。

また、ハンセン病の理解を深めるための資料や、パネル、多くの書籍なども紹介された＝写真。

会場には、多くの参加者が訪れ、熱心に資料や作品に見入っていた。実行委員会・委員長の浅川肇さんにも久しぶりにお会いできた。

催し案内

■つなげよう未来へ 2月19日(金)午後0時半、県文化会館小ホール(近鉄奈良駅徒歩5分)。精神障害者の福祉医療を実現する運動の「成果」と「課題」。奥田和男・共同代表の経過報告、当事者・家族の報告、シンポジウムなど。主催は精神障害者の福祉医療を実現する奈良県会議。問い合わせはマインドホーム高田:0745-23-8072(担当・永石さん)。

■輝く命を未来につなぐチャリティーイベント 3月12日(土)午後1時、三宅町保健福祉施設あざさ苑2階研修室(磯城郡三宅町伴堂848-1)。サンタピアップの活動10周年、NPO法人化3周年を記念した初のチャリティーイベント。ライブ、写真展、現地報告など。参加協力金1500円(軽食、お茶代込み)。問い合わせは古川沙樹さん:080-1437-5624。

ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター
〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail: info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/